

佐藤義英君 ”

長谷川博一君 ボックスに協力して。早退させていただきます。

イライラボックス： 28日現在累計 10,000円

卓 話： 「ギフトトレンド」柄沢憲司会員



今日の卓話は私の仕事に関する話で恐縮ですがお付き合い願います。題して「ギフトトレンド」時代と共に変わるギフト商品やギフトスタイルに付いてお話ししたいと思います。

我々のギフト業界は三十数年前ベンチャービジネスとして誕生、試行錯誤を重ねここまで生長してきた業界です。ギフト業が伸びだしたのはオイルショック後です。オイルショック後セルフサービス、クレジット、自動販売機と同様にカタログでモノが売れる習慣が日本にも根付いてきた為です。ギフトビジネスはカタログと店舗が連動して有店舗カタログ販売という形態でこれが成長の源です。それとカタログには世界各地からの商品が数多く集まっていて、しかもデリバリーが良くなり販売店の在庫が不要になったこともギフトビジネスが伸びてきた原因です。

このギフトビジネスのマーケットは13兆円の大きな市場といわれていますが、その中には我々の取扱い出来ない商品券、テレホンカード、オレンジカード、ホテル宿泊券、ディナー券等も含まれていて、実際我々が取扱える商材は2兆5千億円といわれています。その中にはブライダルの引出物が2千億円の市場、出産祝と内祝合わせて4千億円位ではないかと思っています。一人当りの出産祝品を貰う金額は平均33万円お返しの内祝は平均14万円だそうです。病院の入退院によるお見舞い及び快気祝に付いては病院からの退院者数は年間約202万人でその他自宅療養の人も含めると快気祝は10軒に1軒発生していることになる。贈物は病氣見舞で2900億円、快気祝で2500億円位の大きな市場です。そして香典返し等の仏事市場は5000億円、高齢化の進む30年後2025年には死亡者数は今の2倍に増えると言われています。この件に付いての詳しいことは山中さんにお聞き頂くことにして、私共がウェットを置いているブライダルギフトについて話してみたいと思います。

私もみちのく秋田、青森の一部に出張して丸30年が過ぎました。毎月2週間としても14～5年は秋田に居たことになり、どちらがふるさとか間違ひそうになります。秋田は人情があり独特の伝統・文化があって良くも悪しくも「ここに古里がある」を肌でしみじみ感じさせる土地柄です。新幹線、高速道路もまだなく高速交通の立後れから東京化されてない昔も今もあまり変わらない秋田、そんな秋田が大好きです。

秋田弁で「ええふりこき」という言葉があるのをご存じですか。見栄っぱり、いいかっこしいという意味です。秋田の県民性はこの「いいふりこき」だと秋田の人自身が言っているのだから間違ひ

ないと思う。秋田の県南でかまくらで有名な横手という所がありますがこの地方でちょっと変わった風習があるのでご紹介します。結婚式の引出物は秋田市で3500円位、ところがこの横手地方では5000円から7~8000円位の品物が引出物として贈られている。特に寝具の肌掛布団とか毛布のような嵩張って持ち帰り出来ない品物がよく選ばれる。理由は冬寒いことと盆暮に県外に出ている兄弟達が里帰りするため幾つあってもよいためのらしい。式の一週間位前に出席される家々を新郎新婦が一軒づつ回って配る風習がある。この地方ではこれを前配りとよぶ。世にも希な風習である。この地方には特にええふりこきが多いのかもしれない。引出物が届いてからご祝儀を包むわけで何か妙な感じがしないでもない。「どうぞよろしく」はなにを宜しくなのか感違いをしそうだ。また結婚披露宴の招待数は平均130人位であり特に多いのは由利地区の仁賀保・象潟では150人から200人がざらである。人情の機微があり人との付き合いを大切にするのか、それともええふりこきなのか理解に苦しむところだが商売としてはこの上ない結構な話であります。

結婚の引出物も昔と今では品物も選ぶ人までもわずかに17~8年の間で変わってしまった。昔は引出物は新郎の両親がほとんど決めたように思います。当時は時計・お盆・ポット・アイスペールなどが特に多く、記念に二人の名前を入れたものである。この頃は男性好みの品物が多く選ばれたところからも父親の意向が十分反映されていた様に思います。その後引出物は両家の奥様たちが決定権をもつようになった。台所用品の鍋・やかん・和陶器・漆器と自分たちの身近かで幾つもらってもよい品物が選ばれた。この頃は高度成長の後遺症でおやじは仕事人間化し単身赴任や出張で留守がち、妻は職場進出で収入を得て発言力も増し、私のようにすべて奥様まかせの家庭が増えたためではないでしょうか。そしてここ4~5年の傾向としては引出物の決定権はもはや両親でも新郎でもなく新婦に移り、東京では新婦が85%の決定権をもつようになったと言われております。ブライダルフェアでは展示場に入って来るなり「これステキ」「これ可愛い」と声を発するのは新婦でその母親も「ホントね」と相の手を入れる。そこまで来ると親郎の母親も「それに決めたら」で一件落着。一見普通のこの会話、その裏側には現代の若者特有の選択能力の素早さなのか、それとも氣くばりの欠けた自己中心型の現代女性なのか、はたまた物事を丸く納めようとする賢い姑女根性なのか、人ごとながら気になるところです。このごろの父親はただのスポンサーでついて来だけで、出る幕などほとんどありません。世の中変れば変わったものである。又このように新婦が式場から引出物まで決めてしまう現代、結婚式の前一週間ほど寝込む新郎の母親もあるという、何か解るような気がします。そして新婦の選ぶ引出物はD・Cブランドの洋陶器かフリーチョイスシステムの場合が多い。若い女性は月刊のブライダル情報誌などで式場や引出物等の知識は豊富、よってこうなるのも今のトレンドかもしれません。

今日の社会ではモノが充足していて贈り物が日の目を見ないで押入れに山積されているケースが多い。贈る側も喜んでもらえる品物を選ぶのに骨が折れる時代である。それならいっそ止めてしまえと今の若者なら言いかねない。日本人が育んできたモノを贈って感謝の気持ちを表現してきたこ